



廿日市市
地域支援員だより

2022

夏号

空き家バンク
ホームページが
オープンしました！



撮影：西本

地域支援員

地域支援員とは、地域情報を発信したり、一緒に地域おこし活動をしたり、地域内外の交流をはかったりしながら、地域の力を強くするために廿日市市の職員として1年単位で任用された人のこと。

任期は最長で3年間。その限られた時間の中で、何をやっているのか、佐伯や吉和でどんな動きがあるのかを知ってもらいたくて、この冊子を作りました。年に4回、お届けします。

空き家バンクに関するお問い合わせ先

住宅政策課
竹原 宛

☎ 0829-30-9187

定住推進担当地域支援員
中井 宛

☎ 0829-72-1112

SPECIAL TOPICS

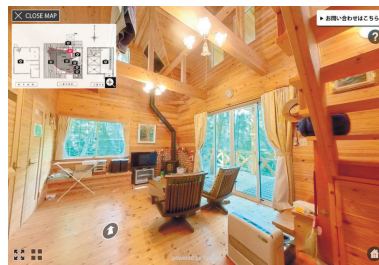
空き家バンク ホームページがOPEN!



ココがスゴイ! 空き家バンクホームページ

360度バーチャル内覧

360度カメラという特殊なカメラにより、上下左右前後360度見ることが可能な写真を撮影することができます。これにより、一般的なサイトよりも多くの情報量を届けることができます。5年前、海外赴任時の住居探しでこのサービスに出会い、とても便利で日本にもあったらいいのになと感動したことを今でも覚えています。当時は、まさか自分がそれをやるとは思っていませんでしたが(笑)地域支援員の採用面接の時から、空き家バンクで実現させたいと言っていたので、今回それが叶って感無量です。



廿日市市空き家バンクホームページより、実際の360度バーチャル内覧の様子(廿日市市吉和字細井原(せせらぎの里) 売買 750万円)

ドローンビューアー



廿日市市空き家バンクホームページより、実際にドローンで撮影した物件の写真(廿日市市津田字須川田 売買 500万円)

屋根や外壁などの物件の外観や、付随する離れや田畑、接道などの周辺環境の様子はドローンで撮影した写真や動画で情報を発信しています。地域支援員着任後、ドローンで空き家を上空から撮影したら面白いんじゃないか?と思ったのがドローンを使い始めたきっかけです。しかしながら、規制について学んだり、申請書を出したり、保険に加入する必要があったり、技術面よりも制度上クリアすべき点が多く非常に苦労しました。今では、航空局から許可を受け、保険にも加入し、ライセンスも取得した上で、安全に留意しドローンを飛行させています。

※**VRやドローンでより多くの情報を伝えたい!**

4月1日に廿日市市空き家バンクホームページを開設しました。2007年(平成19年)から始まった空き家バンクですが、今までは広島県が運営する「ひろしま空き家バンクみんと」などに掲載し、物件情報を発信してきました。ここ数年、コロナ禍により空き家バンクへの問い合わせも増えており、もっと気軽に、より多くの情報をたくさんの人に届けられるようにVRやドローンといった最新技術を盛り込んだホームページを立ち上げようと思いました。

※バーチャル・リアリティ(仮想現実)のこと。専用のゴーグルを用いて360度見ることのできる映像を映すことで、実際にその空間にいるような感覚を得られる技術。

廿日市市空き家バンク
ホームページはコチラ



(中井 皓一)

空き家バンクに

登録しませんか?

廿日市市空き家バンクホームページを開設してから3ヶ月が経ちました。おかげ様で、毎日多くの方にホームページを見ていただき、福岡県や遠くは山形県の方からもお問い合わせをいただいています。今回紹介した「360度バーチャル内覧」や「ドローンビューアー」のように一般的なサイトよりも多くの情報を廿日市市に移住したい方たちに向けて発信しています。空き家をお持ちの方、空き家を手放したい方などおられましたら、一度地域支援員 中井または住宅政策課までご相談ください。この廿日市市空き家バンクホームページが廿日市市内の空き家問題解決の一助になれば幸いです。

マコモタケ 試験栽培 スタート!

令和3年度は、農業持続化担当の地域支援員として地域の方々と交流を深め、地域農業を盛り上げ・持続化させる方法を模索する一年でした。そしてこの度、農業の持続化の方法の一つの取組みとして、農業者の方々の協力をいただきマコモタケの試験栽培をスタートさせることができました。作業は、2月の除草から始まり、3月の耕運、4月の施肥、5月の株分け・代掻きを経て、どうにか適期に約2反(約600坪)のマコモタケの植え付けを終えました。植え付け後も水田として管理し、収穫は9月頃です。



付け作業を体験しました。生徒達は初めての作業にも関わらず、終始笑顔で積極的に取り組んでいました。こういった姿勢をみて、地域と関わっていくことの大切さを感じました。

持続可能な農業を目指して

現在、全国で農業の担い手不足が大きな問題となっており、今後、活用されない農地が増加していくことが危惧されます。四季を通じて私たちが楽しませてくれる農村景観は、人々の暮らしの中の農業によって、これまで当たり前のように守られてきましたが、徐々に荒廃しつつあります。

このマコモタケの試験栽培を通して、農業の楽しさや地域にとっての重要性を様々な世代の人に伝え、農業を次の世代に繋いでいけるきっかけ作りができるように努めたいです。

佐伯高校生が

植え付けを体験

5月18日に佐伯高校の生徒が『SAEKI QUEST』という授業の中でマコモタケの植え

遠方からの生徒を見守る 第二の家族

親元を離れ、下宿生活

令和4年度、佐伯高校はたくさんの中入生を迎えました。その中には、部活(女子野球やアーチェリー)をやるためなど、目的をもって、市外県外の遠方から入学してくる生徒がおり、彼らは親元を離れ、下宿をしながら学生生活を送っています。

そんな生徒を見守る、第二の家族のような存在がいます。下宿として手を上げてくださった、地域の大家さんたちです。今回は、大家さんの一人、鈴木さんに、下宿についてインタビューをさせていただきました。

〓大家さんインタビュー〓

―下宿に手をあげられたきっかけや思いを教えてください。

この地域が好きなんです。地元愛といえますか。子どもたちがいるだけで、地域が元気になるりますよね。そして、若いのに親元を離れて、目的をもってがんばっている子どもたちを応援したいんです。



―「地元愛」という言葉ができましたが、地元のことをとても思っておられますよね!

本当にここ(佐伯)は、よい場所なんです。私も大好きなこの地域を、地域外から来た子たちが知ってくれたらという思いもありますね。

田舎で何も無いって言う人もいますけど、いっぱいあるんですよ。住んでいる人には当たり前に思える、水がおいしくて、自然が美しく、住んでよし、子育てよしって、すごいことだと思うんです。いろんな未来があると思いますが、もしかしたら下宿生の中に将来、佐伯に住む子が出てくるかもしれないですね!

―鈴木さんは、ご自身の子どもさんもおられますよね。お仕事もされていますし、家事や下宿生のお世話など、大変なことはないですか?

自分の子どもと、下宿生合わせて十一人です。ごはんは、どっちも家族に作りますしね。もちろん、メニューを考えるのが大変な時もありますが、すごく喜んでくれるので、嬉しいんです。「ダイエット中なのに!明日からにしよう!」と言って、たくさん食べてくれる子どもたちに、元気をもらっています。子どもたちも、朝起きられなかったり、めんどくさいことがあったり、そういう時も、協力し合っていて、がんばってますしね!

―下宿の大家として、子どもたちを受入れることに、興味を持っている人に向けて、メッセージをお願いします。

少しでもやってみて欲しいですね。たなら、やってみて欲しいですね。

心配事は、考えてしまうとキリなく出てきてしまうと思うんです。でも、一人で悩むことはない。先輩大家さん何人もいるし、行政も力を貸してくれます。相談すれば、必ず解決策が出てくるし、やり方はいくらでもありますから。私も初めての時があつたので、不安な気持ちもわかりました。子どもたちは、目標をもって、親元を離れてでもやる」と、自分で決めてここにきている子たちですから、そんなに心配はないと思います。ぜひ、一緒にやりましょう!ウエルカムです!



〓8月6日(土) 下宿受入れ説明会を開きます〓

たくさんの方の入学生を迎え、来年度、新たに下宿が必要になってきました。

少しでも興味を持ってくださっている方に、大家さんや下宿生のお話、市の支援制度についてのお話を聞ける説明会を開きます。下宿はできなくても生徒や下宿を支援したい方も、募集しておりますので、ぜひお気軽にお越しください。(松本 美由紀)

開催日: 8月6日(土)

16:00~17:30

場所: 水と緑のまちさいき文化センター
問い合わせ先: 廿日市市佐伯支所
地域づくりグループ

TEL 0829(72)1112

「第1回どろんこ遊び開催」

5月8日(日)に、吉和地域内の田んぼをお借りして、「第1回どろんこ遊び」を開催しました。このどろんこ遊びも、前回のキュン。山通信で紹介した、「吉和」から塾」の事業です。吉和地域内で賑わいや交流を促進していくために、塾のメンバーで話し合い、このどろんこ遊びを企画しました。



今回は、試行として地域内の方を対象に行い、地域の小学生と保護者の方、総勢31名の方に参加して頂きました。

当日は、お天気にも恵まれて、絶好のどろんこ遊び日和でした。しかし、この時期はまだまだ水が冷たいので、いらないドラム缶を再利用して、ドラム缶風呂を作りました。はじめは、田んぼ慣れしてもらうために自由に遊んでもらいました。女の子の参加も多く、オタマ

ジャクシやイモリがたくさんいる中、入れるかなと心配しましたが、いらぬ心配でした。慣れたぐらいいら、3チームに分



かれて、おたまりレーを行い、大人も子どももピンポンを落とさないように、必死に走っていました。途中、休憩や自由時間をはさんで、最後にバトンリレーやビーチフラッグ(どろんこバージョン)をして、笑顔あり爆笑ありと楽しいどろんこ遊びになりました。日が陰ると、やはり寒いので、ドラム缶風呂のお湯をかけて体を温めました。



今後は、地域外の方にも参加してもらい、吉和のPRや交流に繋がっていきたいと思います。

(深瀬 憲司)

「#くじまじまん」

募集中

4月に開館した玖島の里づくり交流拠点施設「玖島花咲く館」。日々模索しながら運営しています。

玖島地区コミュニティ推進協議会のメンバーだけでなく、新たなメンバーも加わって、さまざまなチャレンジに取り組んでいるところです。

そんな玖島のみなさんががんばっている様子をもっと知ってもらいたくて、玖島コミュニティのホームページとSNS(インスタグラム)をスタートさせました。

News & Information

内容はコミュニティ活動をはじめ、玖島花咲く館内カフェの週替わりメニューの紹介であったり、イベントの案内などですが、ほかに玖島には美しい自然があるので、これからそんな風景も紹介していきたいと思っています。

それ以外にも、他の人が知らない、あなただけが知っている玖島の魅力がまだまだあるはず。「#くじまじまん」をつけて投稿してください。写真を紹介させていただきます。

「#くじまじまん」
絶賛大募集中！
フォローもよろしく！

(義志 裕子)

玖島情報はこちら！

Instagram



「玖島コミュニティ」で検索

ホームページ



玖島の里

誰もが安心して

浅原で暮らし続けられるための

ビジョンづくり

今、浅原では浅原の未来を創る会(あさみら)が中心となり、地域のみなさん、市民センターも一緒になってまちづくりのためのビジョンをつくっています。

地域のみなさんとは、浅原に住み続けている人だけでなく、浅原に引越してきた人、浅原にご縁のある人、浅原で活動している団体、浅原で働いている人(企業)、空き家の管理や就農のために帰ってきている人たちです。

今年の3月にはビジョンのたたき台づくりワークショップを開催しました。地域のみなさんや市民センターの方と話し合いをしていると新しい発見があるのでとても勉強になり、浅原への探究心がますます高まりました。



ビジョンのたたき台づくりワークショップの様子

いよいよ、7月からは外部の支援者を迎えてビジョンを完成させるためのワークショップが始まります。どんなビジョンになるのか私も楽しみです。みなさんの参加をお待ちしております。

誰もが安心して暮らし続けられる浅原をみんなで考え、話し合う機会になればと思います。(西本 智嗣)

編集後記

佐伯・吉和の両地域の地域支援員は全部で7名。任用されて2年目3年目に突入したメンバーがほとんどで、活動も深化&スピードアップ(していると思いたい)！情報発信の仕方もLINE、ホームページ、Instagramなど広がってきました。今号はそんな私たちの、新たに始まった皆さんとのつながり方をご紹介します。必要な方に、必要な情報が、必要なときに届くように、常にアンテナは高くしていきたいものです。(義志 裕子)